

自己評価表

	チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境体制整備	職員の配置数は適切であるか	個別支援が主のため、基本的には1対1対応で配置している
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	バリアフリー使用の設計を行った。放課後等デイの活動では学童保育との交流が中心のため、2階の学童保育室への移動が課題である。寝たきりの児童には、「防災敷きマット」を使用して階段の昇降を行っている。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参加しているか	日々の教材準備や、ケース・調整・検討会議に全員が参加して意見交換をし、次の計画を作成している。
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	外部評価は行っていない。3事業所が互いに連携し、月1回の定例会議等で、お互いの事業の報告を行い、確認しあっている。
	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	市の研修補助金を利用して、内部研修として基礎的知識の習得のための研修を行っている。外部研修に関しても、参加への配慮を行っている。月1回の定例会で事業全体に係わる研修を開催している。
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	週1回のケース会議を開催して、現状把握を行い、課題は何かを話し合っており、保護者の確認の基で個別支援計画を作成している。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	独自のアセスメントツールに関しては作成経過途中のため、引き続き完成に向けて検討している。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	週1のケース会議、他月2・3回の学童・保育との連絡会議等で情報交換を行い、プログラムを作成している。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	子どもの発達状況に応じて見直ししながらプログラムを作成して行っている。
	平日、休日長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定しているか	平日の利用時間と学校休業日等の利用時間に差があるため、おのずと活動の内容に変化を持たせて対応している
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成しているか	各児童の障害特性に合わせて、保育・学童との交流時間等を組みこんで支援計画を作成している。
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	朝と午後に打ち合わせを行い確認している。併設施設（保育・学童）との連絡も齟齬のないよう毎日行っている。
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援内容の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	30分の記録時間をもち、情報の共有を行っている。
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	支援後の記録をとることによって、子供の状況と支援内容の記録を確実にし、次の支援につなげている。
	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	初期は2ヶ月で見直しを行い、その後6ヶ月を目安に行う。また必要に応じて計画の見直しも行っている。
関係機関や保護者との連携	医療的ケアが必要な子供を受け入れる場合は、子供の主治医等と連絡体制を整えているか	利用開始後、定期検診時同行をして意見を聞いたり、必要に応じて保護者を通じて医師の見解を求めている。
	就学前に利用している保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	同一法人の学童保育および保育所利用児に関しては、定期的に調整会議や、ケース会議を開催して情報の共有を図っている。学校に関しては、「学校へ行く週間」や、保護者の了解を得て授業参観等に参加し情報共有するよう努めている。他事業所に関しては保護者を通して情報を得ている。
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	その機会が今のところない。相談事業所からの招集がない。相談事業所の担当が必要書類を提出するために来所した時に、情報交換を行っている。
	学校との情報共有（年間計画・行事予定の交換、子供の下校時刻の確認）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	行事等の情報共有は、保護者の了解を得て、毎月のお便りで確認している。連絡調整については学校への迎え時に担任を通じて直接行っている。支援学校については、共通の連絡帳や、保護者の了解を得て、学校からの連絡帳を通じて確認している。
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	現在のところ移行の事例はないが、対象児が出れば提供をする体制整備をしていく。
	児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	研修には、必要に応じて参加している。助言等については保護者を通じて情報を得ている。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか	併設の保育室と学童保育があり、個別支援時間以外、障害のない子と交流活動を行っている。
	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持って運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	送迎時に直接保護者と情報交換を行っている。保護者からの要望に応じて見学や相談対応を行っている。
	保護者からの子育ての悩み等に対応する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	送迎時や電話等で、保護者から相談があるときは、適宜対応している。相談内容によっては、情報収集を行ったり、必要な子育て支援事業等を紹介したりし特別に設定はしていないが、併設保育室等が開催している、ダブルケア者の会に参加呼びかけを行ったりした。
	子供や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に、迅速かつ適切に対応しているか	体制は整備している。また保育・学童とも連携し、保護者からの相談に対しては情報を共有し、迅速な対応を心がけている。ご意見箱の設置をしている。
定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	年3回会報を発行している。そのほかホームページやブログ等で発信している	
個人情報に十分注意しているか	事務所に鍵をかけ、外部持ち出し厳禁としている。会議資料等も持ち出し厳禁としている。	
事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	児童通所支援事業所独自としては行っていないが、併設保育室や学童保育等で行う事業を共有し参加している。	
緊急時対応マニュアル、防犯対応マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	マニュアルを策定し事務所に保管していつでも対応できるようにしている。	
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	火災・地震・防犯等の訓練を法人3施設で順番に、毎月行っている。	
虐待を防止するための、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	マニュアルを使って年に1～2回読み合わせを行い、人権問題に対する意識を高めている。外部研修への参加を積極的に行っている。	